

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学部
評価基準 6	学生支援
点検・評価項目(2)	6-2 学生への修学支援は適切に行われているか。
評価の視点	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

6-2	<p>スポーツ科学科としては、1 年次授業「フレッシュマンセミナー」及び 2 年次授業「スポーツキャリアセミナー」は学年合同で実施する授業であり、学生への修学支援のとして機能している。また、学年に 2 名の担任制度を設け、学生生活の相談には学科主任と学年担任が中心となって対応し、学業不振、不登校等の問題を早期に把握し、対応している。</p> <p>健康科学科としては、理科系の学力強化のため、夏季休暇を利用して高大連携事業の一環として補習授業を行っている。また、ゼミを中心に学業不振、不登校等に対応し、きめ細やかな指導を行っている。さらに、全教員がオフィスアワーを設けて、学生相談に応じている。メンタルに関わる部分についても、保健室・学生相談室と協力して、対処している。また、3 年生、4 年生に対して保護者会（三者面談）を大東文化会館で開催し、保護者とも連携して学生の修学支援を行っている。さらに、国家資格（臨床検査技師）を目指す者に対して、外部講師を招聘して夏期集中講座などをキャリア支援と兼ねて開催している。</p>
-----	--

【効果が上がっている事項】

6-2	
-----	--

【改善すべき事項】

6-2	学部として、各教員の出講日に合わせたオフィスアワーを設置する。
-----	---------------------------------

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

--

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	6-2 留年者および休・退学者の状況把握と対処を適切に行い、その割合を 2% 台に抑える。	前年比で留年者および休・退学者数を減らす。	→ B				
14 年度 目標	6-2 スポーツ科学科では、留年者及び休・退学者数を減じるために各教員がオフィスアワーを設置して早期の対応を可能とする。	スポーツ科学科の全教員のオフィスアワーが明示される。	→ A				
	6-2 健康科学科では留年者及び休・退学者数を減じるために、すでに各教員がオフィスアワー、保護者会（3、4 年生）を設置して、早期対応に努めているところであるが、さらに教員担任制（1 年生）を設置して学生支援体制を強化する。	前年比で留年者および休・退学者数を減らす。	→ B				